

教育課題検討委員会 第3回 議事概要（公開用）

平成 28 年 12 月 14 日(月)19:00～20:30

総合福祉センター 3 階集会室

出席者： 検討委員（欠席者 1 名）、事務局

（課長補佐）

ただいまより、第 3 回多度津町教育課題検討委員会を開会いたします。

はじめに、多度津町教育委員会 教育長 よりご挨拶を申し上げます。

（教育長）

失礼します。本日は、第 3 回の教育課題検討委員会にお集まりいただきありがとうございます。今回は、審議をするために 3 名の意見聴取者として、現場を代表する責任者である先生方に来てもらっております。意見聴取の場面では、意見を述べていただくと思うのですが、そういうことで、進めていって構いませんか。

（会長）

いかがでしょうか。委員全員からお聞きすることも可能でしょうか。議事の中で意見いただくということになります。

（会長）

はい。わかりました。皆さま、よろしいですね。

（教育長）

第 2 回では、今後の学級編制の状況を幼稚園、小学校において推計しました。これに、施行令にある学級数は、12 学級以上 18 学級以下を標準とするということを当てはめて推計しました。幼稚園では、複式学級ではなく、単式学級の成立を目途にして学級編制の状況を推計しました。ともに、推計から言えば、今後 2 校、1 園については、標準をクリアできないこと予測されるということがわかりました。また、在園児の居住分布からは、四箇幼はほぼ校区内から、あるいは、豊原幼は南部のエリアからの在園児が多く、豊原と多度津の選択区からは 3 割、多度津幼稚園は、1 キロ圏内からが 8 割、あとは、白方・選択区からがそれぞれ 1 割。白方幼稚園では見立をのぞく校区内から、通園しているという通園の状況がわかりました。小学校においても、ほぼ同じような状況で、多度津小学校では、多度津幼稚園と同じような傾向が見られ、ほぼ 1 キロ圏内からが 8 割程度が多度津小学校に在籍している状況であります。豊原小では、南部校区から 7 割、北部の選択校区から 3 割ということです。四箇小学校は、ほぼ四箇校区からがほとんど。白方小学校は校区内で、2 キロを越える状況もあ

ることがわかりました。次に県内の再編状況も検討し、県内の多く市町が再編計画を実施していることがわかりました。どの市町も、何らかのかたちで再編を計画している。さらに、子どもの数と町の面積で参考にしながら、幼児密度とか児童密度を取り上げ、類似市町との比較をしながら、適切な幼稚園の数とか小学校の数はいくつかということを検討しました。こういう検討の基にあったのは、やはり施行令、また、幼稚園では6人まで集団ということに基づいて検討してきたのですが、検討委員会としては、このことについて再度、確認しながら検討をしていくということになると思います。そこで、その点についても、十分に協議しながら、検討していきたいと考えております。それが、第3回の教育課題検討委員会の内容になるのではないかなと思っています。さきほど、意見聴取者に3名の先生に来ていただいたわけですが、小学校の状況をよく理解されているというか、経験されておる校長先生と、幼稚園教育に長年勤務されている園長先生に来ていただいて、意見聴取の場面では、意見を聴取したいと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。話が長くなったのですが、どうぞよろしく申し上げます。

(会長)

それでは、先生方のご紹介を。

(意見聴取者・校長)

多度津小学校の校長です。よろしく申し上げます。

(意見聴取者・校長)

白方小学校の校長です。どうぞよろしく申し上げます。

(意見聴取者・園長)

多度津幼稚園の園長です。よろしく申し上げます。

(課長補佐)

それでは、教育課題検討委員会の会長に司会をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

(会長)

改めまして、皆さま方よろしくお願ひいたします。今回も前回に引き続きまして、多度津町の教育課題について、検討を進めさせていただきます。第2回の議事概要の校了が、すでに皆さまのお手元に渡っているかと思ひますけれども、この議事録については、公表することを前提にしております。何か、ありましたら、これにつきましてご意見を頂きたいと思ひますが。よろしいでしょうか。それでは、今回につきま

しても、同様のまとめをして、公表させていただきますので、
そのように理解しておいていただければと思います。

それでは、事務局よりご説明をいただきたいと思いますが、議題の1番になりますかね、小規模校と一定規模校のメリットとデメリットの再掲、それにつきましてよろしくをお願いします。

【事務局より説明】

(会長)

はい。ありがとうございます。前回の議論をまとめていただきまして、今後の方向性を示していただきましたけれども、まずこれについて、ご質問のある方はお願いしたいと思います。

(委員)

あの一定規模の基準を議論していただいて、概ね小学校については、国の12学級以上、それから幼稚園については集団6名以上、複式学級は解消すべきでないかというふうなことだったかと思うのですが、方向としては、私の個人的な意見から言うと、当然、学校区を対象とした地域のコミュニティには配慮していかないかと思うのだから、やはり子どもの自立心とか競争心とかを養うことが子ども自身の成長につながっていくので、一定規模確保の方策について、検討していくべきなのかな、と思っています。

(会長)

はい。ありがとうございます。委員さんから、すでにどちらの方向かということのご意見を伺ったかと思うのですが、よろしかったでしょうか。

それでは、3人のアドバイザーの先生と言ってよろしいのでしょうかね、こちらからはどうかたちでお話をいただくようになりますかね、先にお聞きをしましょうか。現場の先生方から意見を伺うと言ったことでよろしいでしょうか。

(教育長)

参考になるようなことをお話していただいたら。

(意見長聴取者・多小校長)

今回参加させていただく前に、前回までの資料を見ていたのですが、ひとつね、気になることがあります。大したことではないのですが、県の学級編成の基準なのですが、前回いただいたので、2年生までが35人学級になっているのですが、現状4年生までが35人学級になっているのです。

(意見聴取者・多小校長)

今は、小学校2年までが中1と同じで、国の加配で35人学級、4年生までが平成24年から35人学級では。

(教育長)

それは、少人数加配を入れての話なのでは。

(意見聴取者・多小校長)

ちがいます。加配1を加えて、35人学級。

(教育長)

加配を使ってでは。

(意見聴取者・多小校長)

でも、2年生もいっしょですよ。小2も。国の加配だけど、係数じゃなくて、加配1を使ってプラス1とする。小学校4年までは35人学級。

(教育長)

それは、いつからか。

(意見聴取者・多小校長)

24年からです。27年からは、中学校が国の加配1を使って35人学級。

(会長)

また、確認をしていただいてということ。

(意見聴取者・白方小校長)

今は、白方が107名ということで、6年生が11人。少人数のメリットというところ少ないですが、手厚い支援はできます。

それから、少人数だから縦の活動が盛んで、小さい子が大きい学年と仲が良いというのは、特徴であると思うのです。なにせ11人で、広いグラウンドでサッカーなどしているところを見ると、ちょっとこれは、と思います。女の子は3人しかいないのです。体育、音楽の活動とかね、そういう面では、5・6年一緒になってしたりする時もあるのですけれども、単学年では難しい。そういうのは、子どもたちを見ていてかわいそうなところはあります。そんなところがあつたりして、中学校に行き固定

した関係から、中学校の大人数のところへ行くと、やっぱり大勢の学年は力というか、与える影響は大きいと思います。やんちゃな子が、びしっとなって帰ってきたとかいう場面を見ると、大勢の影響を受けて、小さいところだとわがままというとなんですが、先生との距離も近いし、そういうところが、やっぱり大勢の人数の中に揉まれると、きちんとしたように変わる。それは、中学校に進学したということが大きいのかもわかりません。小学校のときから大人数で鍛えられるのがいいのかなという気はしています。

(会長)

逆に、小さい学校から大きな中学校に入って、それに萎縮したとか・・・。

(意見聴取者・白方小校長)

萎縮とかは、校長先生もおっしゃるように、埋もれてしまえば、個性発揮しづらいつつとかそういう状況はありますが。大きな人数の影響を良い意味で受けるのかなと思いますね。

(会長)

はい。わかりました。

(意見聴取者・多幼稚園長)

幼稚園のほうも、減少をしております。一定規模の確保は、子どもたちにとっても、もちろん大事ですが、先生たち、教員たちにとってもお互いが切磋琢磨しながら、教育力・指導力を高めていくというか、そういう面でも大事なことでないかなと思うのです。

でも、もちろんメリットとデメリットがあるのですが、大勢の中で、学校生活、園生活をやっていくっていうのは、子どもたちの社会性とか、心の教育、小規模だと教育ができないという訳ではないのですが、色んなことがある分、経験もできるでしょうし、精神面も鍛えられたりするのかなぁと思います。多度津幼稚園の場合も、今からどんどん減っていくと思いますので、どこかの園にくつつくか、統合することになるのでないかとか予想はしておりますけれど、できたら、小規模のままじゃなくて、この機会に、一定を確保して、進めていくということは、私の個人的な意見としては良いかなと思っております。

(意見聴取者・多小校長)

この間、資料いただいて考えてたんですけど、今おっしゃられたように、文科省の手引きのもとで、メリット・デメリットが出されているんですけど、当然そうなるくと、小規模はデメリットが大きい、となると思うのですよ。

例えば、白方小学校は小さいですけど、単学級であったとしても、白方小学校の5年生は27人で、受け持ちの先生の授業をこの間、見せてもらいましたが、25人前後の学年であれば、単学級であったとしても、「多様な考えに触れる機会が少ない」とは決して、言えないところがあるのです。「グループ学習等が難しい」「児童と先生の距離が近すぎる」ということについても、これは例えば2学級のある学年と、単学級でも27～28人の学級では、「児童と先生の距離が近すぎる」と考えた時に、実際どうなんかな、そう言いきれののだろうかと考えるところはあります。だから、そういう視点で行くと、単学級であるというのは、クラス編成ができない、ということのデメリットは当然あります。今の多度津小学校、四箇小学校も2クラスですけど、2クラスということは、2年に一度、選択肢は2つに1つだけですが、そういう極端な状況ということではないと思っています。

統合か存続かという選択肢になるのかなと思うのですが、例えば今、豊原小学校と多度津小学校の校区というのは、ちょっと競合しているところがあるのですが、この間いただいた資料を見ていて、例えば難しいかもしれませんが、一定規模保つためには、統合もあるし、選択制というのものもあるし、校区の見直しというのものもあると思うのです。極端に言えば、34年度の推計を見たとき、多度津小学校が全部、単学級になっているのですが、10人ずつ多度津のほうに通学区が変わって移れば、この数字だけ見ると、4年までが35人学級としてみると、平成34年についても、12学級、全学年2クラスのということになるのですよね。豊原小学校は、10人ずつ引いたとしても、全学年2クラスとれないことはないです。

だから、校区の見直しとか、あるいは丸亀の中学校のように、部分的な選択制というところも、視野に入れられんこともないのかなあ、と。

白方小学校については、明らかに20人を切ると、いろんな活動というのが、活力が無いというか、厳しい。ただですね、さっきのデメリットのところであったように、コミュニティがなくなっていくということを考えた時に、学校というのは、防災とか地域の交流とか、そういう場でもあり、それから地域の力を借りて学校運営をしているというところがあって、多度津町内で小規模校が1校、今現在のようにあったとしても、そんなに違和感というか……。さっき、教育長さんが周辺市町の動向というの也被われていましたが、周辺の小学校21校をみた時に、12学級以上の学校は、多度津には3校ありますが、善通寺は竜川小学校だけです。あとは、単学級の学校で、それらが再編に動いているという事かもしれませんが、今現在は多度津町内の4つの小学校というのは、仲善の21校にあって、比較的、人数が保たれているという状況かなとも思いますね。そういうのを考えた時に、拙速に統合ありきというのは、どうかと感じたところがあります。いろんな方法があるのかな、と感じているのです。

(会長)

3人のアドバイザーの先生からご意見いただきましたけれど、委員でいらっしゃ

る先生のほうからは、こういったあたりは？

(委員)

私を感じておるのは、どうしても私は白方ですから、地元の考えで、コミュニティ、地域の行事、そういうものを考えた時に、いきなり学校がなくなるということは、非常に寂しい。

(会長)

質問があるのですが、先生ちょっとお尋ねしたいなと思いますけれど、選択制や校区見直しというのを視野に入れたらどうかというのをおっしゃいましたけど、その関連で、実際に今、選択制で多度津小にきている児童さんもいると思うのですが、コミュニティが大事だという話がありました、これの問題点は、いかがですか。選択で、多小と豊小のほうに分かれているということです。コミュニティの問題で把握されていることはございますか。

(教育長)

以前に、ひとつの方法としては、通学区域の線引きを変えようという案があったのです。それは、何が主眼だったかというと、ある地域の小学校は、非常に人数が多いと。ある小学校は、施設は十分に広いけれども、子どもの数が減っておると。バランスよく、子どもたちにいい環境で学ばせるために、通学区域をいらしてみようというかたちで、検討して、何年もかかったのですが、結果的に言えば、豊原の校区の中で、多度津小学校に行ける地域というのを、選択できる地域として設定する、と。

四箇や白方の他の地域も検討したのですが、他の地域は有効に機能しなかったの、その地域だけになったのです。そのときでも、いわゆる通学区域の見直しの過程の中では、地域の問題があつて、非常に反対の論が出て、線引きを変えるというのはやっぱり、非常に難しいし、反対が非常に多かったというふうに私自身は捉えております。

(会長)

それで、今、お伺いしたいのが、多小でそれらの地区から来ているようでか、コミュニティの問題というのも、校長先生が何かお有りになれば、今後の参考になるのでは、と思ってお伺いするのですが。

(意見聴取者・多小校長)

今のところはですね、教育長のおっしゃるとおり、たくさんの移動はないので、大きな問題は起こってはいません。小さな問題は、自治会の問題とか、こども会は何区に入るのとか、そういう問題はありますけどね。聞かれたのは、一番近いところに入

ったらどうですか、とか答えたりします。この線引きを、もっと大幅にいらってくる
とちがうのかなと思うのですけど。

うまくいかないかもしれないのですけどね、例えば、究極の選択で、豊原と多度津
の2つを1つの学校にするのか、あるいは校区を見直すことによって2つを残して、
ある程度、2学級以上の学校を2つ存続させるのかというような、究極の選択をした
ときに、私も町民ですから、コミュニティとして果たしてどちらがいいのかなと思っ
たりはする。

(委員)

以前の、自由選択校区という結論が出たときの、保護者の声なのですが、町内全体
をきちんと将来的を見通して見直して、その区画に自分たちのところがはめられる
のであれば納得する、と。そうじゃなしに、今はここの学校が多くて、ここは少ない
から、あっちに行け、こっちに行け、というのは納得できん、というのが保護者の声
だったのです。わざわざ、豊原に土地を買って家を建てたのに、多度津に行けとい
うことなのか、という声もすごくあってね、やっぱり校区っていうのは、将来的にはこ
うなりますよっていう、将来的なビジョンを示しながら、こうですよって言っていれ
ば、あのとき保護者も納得してくれたのではないかなと思うんですが、突然に出てき
て、ここからここは多度津になる、ここからここは豊原に行けというようにされたも
のだから、保護者はびっくりして、すごく怒っていたということは、その場にいた者
として感じました。だから、その時には、町内全体を考えてほしいのだ、と。今は多
度津と豊原や、と。でも次はどこどこや、となるとね、また変わるのかというかた
ちに持っていかれると困る。するのであれば、一気にやってくれ、とそれが町の方向
としていくのだったら、納得するというような声だったように思います。

(委員)

一点、確認したいと思います。今ここに、2つの選択肢が出ていますが、この選
択肢を考えていくにあたって、実際に、どれくらい先を見通して考えているのか。例
えば、一定規模を確保するといっても、当然のことながら、数年先に統合するという
のは、白方小学校の校舎は完成されたばかりですよ。そういうこともあるし、今、
おっしゃっていただいたように、学校にとってはそれで良かったとしても、コミュ
ニティの存続云々と言ったとき、それなのに2～3年先にやりましようと言うのは、無
理な話だと思うのですよ。一体、どれくらい先を見通したビジョンとして、この選
択肢を考えていったらいいのか、という部分において、変わってくると思うのです。
私も、それによって答えは変わりますので。そういう部分は、どうなのでしょう。

(会長)

今日の手順としては、確かに、このどちらかをできれば選ぶというところに持って

くるのだと思うのですが、それにあたり、いつを目処にするのかというご質問ですね。

(校長)

これで言うと、平成34年、一番先でも6年先のデータを出とるわけですけど。

(会長)

教育長、いかがですか。

(教育長)

そこが、大事なと思うのですが、最初の回るとき、将来的なこどもの数というのは、だいたい先まで出させてもらっているのですが、校長が言うように、どこを目指して、目標にしていくかというのも、もちろんあるのですが、最終的には、しなければならないと思うのですが、今現在は、こうした一定規模の人数がおったほうが、将来的に、そういう学校を目指したほうがいいのか、小規模でも存続させていく学校を目指したほうが良いのかを検討していきたいということです。その基準としては、文科省の出しておる基準が適当なんじゃないかということで、出させてもらっているわけなのです。

(会長)

文科省のほうから、いつまでに目指せというのはないのですよね。早めに、であるとか。

(教育長)

それはいいです。文科省も、もし、地域のコミュニティの核として学校を使うのだったら、1人でも2人でも存続させてもいいよというのは、一方で出していますから。その、どちらを取るかを選ばなければ、なかなか前に進んで行かんのかなと思いますけどね。

(委員)

教育長、小学校と幼稚園の2種類ありますよね。白方の場合、幼稚園が平成31年に5人になるのですよね。当然に、存続の意味がなくなるというか。小学校は、そういうわけにはいかないのですが。時期がばらばらになると、思うのですが。

(委員)

当然、将来推計も、幼稚園と小学校ちがうので、目指すべき方向で、一定規模を確保するという方向を取るのであれば、小学校はいつまでにか、最終的な着地点については、こういう方法でいつ頃までにか、幼稚園はこういう方向でいつ頃までにか

か、そういう時点は当然異なってきますし、先ほどの、一定規模を確保する方法としては、校長がおっしゃられたような単純に1校と1校を足すのではなくて、学校区の再編によって、一定規模を確保するということもありえると思うんです。だから、一定規模を確保する方策としては、色んなパターンがあつて、後から資料出てくると思いますが、それは単純化したパターンなので、それ以外のパターンも出てくるでしょうし。

(会長)

やはり、まず方向性を決めてから、具体的にどうするかということですかね。

(校長)

今、お尋ねしたのは、やっぱり教育現場にいる人間として、何人という基準はともかくとしまして、一定規模というのは、メリットある大事なことだと思っています。同じ単学級であっても、先ほど校長が言われたように、今の白方小学校の25人と11人では、また全然ちがう単学級だと思うのです。一概に言うことはできませんが、私はやはり、一定規模を保つというのは大事な、と。ただし、それだけで終わりというものではない。コミュニティはものすごく大事なことだと思います。私、中学校でみると、4つの校区から生徒は来られます、多度津町それぞれの校区、すごく特色を持っているなと思います。校区ごとで、いい意味でよくコミュニティを守られておられるのだなということも感じます。そういうことを考えた時に、あまり急速にやると、難しいなという意味でお聞きさせていただきました。

(会長)

そういう配慮を踏まえて、一定規模にしたらどうかということですね。

(委員)

今、小学校のほうで、「いつまでに」というのは決められないという話だと思うのですが、小学校の場合は、今いろいろお話をお伺いして、ある程度、方向性を考えて決めていってはどうか思うのですが、幼稚園の場合、白方のように、すぐ、そこに迫っている問題です。何園にするか、1園にするか、2園にするか、3園にするか、は今からなのですが、どちらにせよ、白方が5人になるとか、今の人数と、これからの人数を考えていくと、幼稚園に関しては、目の前に来ていることなので、そのところは、決めていっていただかないと、先ほどの教員のことでもそうですし、子どもたちにとっても、大きな課題になると思うのです。そのところは、小学校と幼稚園っていうのは、すごく状況がちがうところだと思います。

(委員)

一般町民の中で、幼稚園に入園する対象のご父兄の方は、割と話に敏感なのですが、その他の、どっちか言うたら関係がない人は、どういう流れであるかというのは、ほとんど理解していないんですね。ただ、その中で、幼稚園がなくなる、いわゆる入れ物がなくなることについては、非常に寂しい。こういう流れになっているのだということを、町民全般に広報というか、お知らせするというか、準備をしての上で、いきなり無くなりますよという、ものすごく抵抗がある。

(会長)

同じくコミュニティへの配慮ということですね。方向性を決めたらうえて、十分に配慮をしながら進めていただけたら、ということですね。

委員さんも述べられていた白方幼稚園の減少からすると、やはり、これは寂しい思いはあるものの、進めるべきという点は。

(委員)

やむを得ないですね。

(会長)

他に皆さまいかがですか。今日は少なくとも、方向性というかたちでは出すことになります。

(委員)

周りの保護者に聞いたら、小学校統合は反対の人がほとんどで。

(会長)

理由としては。

(委員)

少人数の方が、結束力が養われて、将来的にもストレスに強い人間になる。

(会長)

少人数のほうが強い人間になる、と。

(委員)

あと、発表回数とかは増えるので、コミュニケーション能力とかは高まるとか。

(会長)

委員さんは、いかがでしょう。

(委員)

人数が減っていくので、小学校幼稚園に関して、ある程度、致し方ないのかなと思っていたのですが、校長先生が言われたように、校区をもう一度見直すっていう手も、もちろん周りの町は、統合して学校を減らしてっていう方向かもしれないけど、多度津町は教育にこれだけ力を入れているっていう、多度津町は、こういう方針で押し出して、校区を見直すっていうので、もっと町民に知らせたら、そこは、こどものためだったら保護者は納得すると思います。周りの町に合わせて、右に倣えじゃなくて。それだったら、校区の編成に関して前回とちがった町民の感情もおこるのじゃないかな。

(会長)

校区の見直し案というのも、校長先生からありましたが、お示しいただいているこの2つの方向性から言うと、どちらですかね。小規模のままの見直しか、一定規模にするための見直しか、両方考えられるかなと思う。

(教育長)

校区の見直しは、前回、結果的にそうなって、その前提にあったのは学校と住居の距離なのです。近いところに行けますよ、ということでもとめていったのです。最終的に言うと、その選択校区ができたのと、小学校は近いところには、申し出てくれたら、どこの学校にも行けますよというかたちにしており、こどもとか保護者の意見を反映させた、校区の見直しではないけど、こども、保護者の利便性を図ったという点も、校区の見直しの中であるのです。それで、どうして、多度津と豊原だけ、そういう形になったかという、四箇と白方とか、白方と多度津も調べたのですよ、通学距離について調べた結果、見直ししたとしても、あまり影響なかったのですよ、人数的に学校規模維持に、将来的にも影響がなかったということがわかって、それで、とりあえず、多度津・豊原の地域だけは、大きな影響があったところなので、選択という形となり、あとは、距離的に通学距離が短いところに、申し出てくれたら行けますよ、という形にはしたのです。

(委員)

それと、通学区域の見直しの際に、第二段階として、四箇白方を含めた検討をしようじゃないかというところまでいったのです。

(教育長)

そうではないのです。1.5km圏の通学距離を測って、四箇と白方の重なる部分で調べましたが、その結果、あんまり、そこにいるこどもが、正直言っていなかった

たのですよ。だから、その見直しを図っても、あまり意味がなかったのです。

(委員)

位置の面から中学校区のように、1つの学校区の中に、複数のコミュニティが、それぞれを維持したまま入っていくという面もありますし、校区の見直しというのは逆で、1つの今あるコミュニティを2つに分けて、学校区を変えてしまうという。コミュニティの面から言うと、どちらがいいのか、色々難しいところではあるように思います。校区の見直しによって、コミュニティが分割されてしまうといったような。ただ、統合の場合だと、そのまま複数のコミュニティが、学校区の中にある、と。それぞれの個性が、その中で維持されるといった側面も、なくはない。

(委員)

前の時に、堀江地区は多小校区というところと、豊原校区というところと分かれているのですよね。以前は、校区が決まるときには、堀江は多度津に入りたかったとかいう意識があったのに、多度津が、人数の多いということで割られてしまって、今さらまた多度津に戻れというのか、というような意見を言われている方もおいでたので、そういうこともあるということ言われているのです。今、私が住んでいる豊原のところは、選択がかかっている部分なのですが、やはり子どもが、多度津に行っている子と豊原に行っている子では、やっぱりずれている。ずれているといっただけいかに、接点が少ないっていう感じで、同じ地域にいながらも、やっぱり子ども会の活動も変わってくるし、繋がりっていうのは難しいなあ、と。同じ地域であれば、同じ学校に行ったほうがいいのかっていう感じはします。

(教育長)

これは、最終的には、行政がこちらに行けとか、あちらに行けとかいうかたちではなくて、保護者の判断を大事にしようということで、そういうかたちにしたのです。

(会長)

さて、さまざまなご意見ありまして、私もなかなか難しいのかなという気がして参りましたが。

(委員)

校区見直しというかたちになるのであれば、自治会は一緒な校区というかたちに持っていく。自治会というのか、神社を囲んだ同じ地区とか、そういうところは一緒にするとかね。だから、堀江は、神社でお祭りをする時に、多度津校区と豊原校区と両方とが寄ってのお祭りというかたちになっているので。お祭りで、今までしていた獅子に、子ども会が手を引いたとか、何か、割れてしまうのやということ聞いて。

(会長)

コミュニティ内で学区はそろえた方が良く、と。その中で、委員さんがおっしゃった、学区が大きくなることで、コミュニティを合体させるといったかたちであるのなら、コミュニティを維持できるのではないかという考え方ですね。

P T Aの代表のお二人からは、今を維持するほうが、というご意見も出ておりますが、統合することによってコミュニティがどうなるかといったことですが。あと、校区見直し案もいいんじゃないかということでしたけど、それによる問題もあるのではないかというお話でしたが、堀江がそういう経験を以前になさってるわけですよ。

(委員)

その前回のときに、そうだったという事を、私も初めて聞いたものですから。

(会長)

上から、そういうふうによりコミュニティを分けられてしまった。それに対する遺恨が、ということですね。校区の見直しには、そういった問題もはらんでいるということですね。

(委員)

幼稚園の保護者で話をしたときには、こどもが減っているというのは、ひしひしと、行事や活動をしていく中で、5年前はたくさんいたのに、だんだんだんだん親の手の数も減って、大変なので、全保護者がそれを感じていて、合併は致し方ないのかな、という雰囲気はあるように思うのですが、もうひとつ上がった小学校の保護者の方が、こども会の活動とか、ずっと活動する率が高くなってくるので、小学校の保護者の考え方と幼稚園の保護者の考え方は、ちょっとずれがあるのかな、という気もして。

(会長)

確かに、変えるよりかは現状維持のほうが受け入れられやすいところだと思います、心理的に。しかし、将来を見越したというところでは。

(委員)

選択肢なのですが、例えば、一定規模のほうにいったら、もう一切、小規模は考えないということじゃなくて、まあ一定規模を確保する方策を考えていく中で、いろんな課題があって、検討内容を詰めていく中で、一定規模確保も難しいとなれば、また、この地点に戻ってくるということも、ありうると思うんですけども。一定規模の議論を深めていく過程では、どちらに重点を置いていくかということ、今後一切、議

論はしないということではないと思います。

(教育長)

学校は、集団で学ぶところであり、そこが一番、僕は大事なところだと思います。集団の質もあるかもわからんけども、集団の量というのですかね。集団が大きくなれば、それだけたくさん個性となるわけで、それが本当に小さい集団で、多くのところはそれで頑張らないといけないのかもしれませんが、今後、少子化する中で、小さくなっていく集団の中で、本当にいいのかどうかと言うか、それをまず考えて、その集団が、うまく機能するような、こどもひとり一人の成長にとって良いのが今出ている学級数が2学級以上ということになっているのですが、そういうことがいいのかどうか、ある程度、考えて。今、それに対して、今、白方のことを考えたり、自分の地域の学校のことを考えたりすると、どうしてもそこに対する愛着とか、良さとかを感じとるわけで、言いづらいところもあるかもわかりませんが、やはり、これから先、少子化する、そういう現状の場合は、どのくらいの人数がおったらいいかということを検討せんと、いかなのではないか。だから、今日、これを選んだからこれでぐうっと行くと、そういう話ではなくて、また、小規模の事項とか、地域の核の事柄を、どう反映させていくかも、必要な議論にはなっていくと思うのですが、一応、さっきも言った、議論を深めるために、ある程度の規模を持って進めていくかどうかを、検討していったらどうかと思うのです。

(会長)

教育長のお言葉については、皆さまいかがですか。

(委員)

やはり、一定規模というのは要るのではないかな、と。いろんな意見の人がいて、いろんなことを学ぶ。でも、自分の意見を、「あ」と言うたら全部「うん」と答えてくれる関係の中だけでは、やっぱり世の中では渡っていけないと思うので。反対されても、自分の意見を通したい、じゃあ、その時はどうしたらいいかということ、ケンカもしながら、トラブルもありながら、学んでいくっていうのが、やっぱり、この小さい時からの経験がいるのではないかなと思うので。こうしたら、周りがわかってくれる、動いてくれるっていうような、それは確かに仲良しで、いい部分はあると思うけど、でも世の中に行くと、それではいけないのではないかなという部分で、今、社会に出て就職して、何ヶ月かしか持たないっていう人たちがすごく増えているっていうのは、そういう心の面が練れてないのかなっていう部分があるので、そういう点では、もうちょっと一定規模で、きちんと自分の意見を言うけれども、相手の意見も聞く、じゃあ、そこでどうやって折り合いをしていくかっていうことを、きちんと学んでいくっていうことが、大事なんじゃないかというふうを感じるのですけどね。

(委員)

私も、前回と先ほど言ったのといっしょで、やはり集団の中での切磋琢磨、それがあつての教育の場である、学校教育だということはずっと持っています。そういう意味では一定規模、ただ、さっき言ったように、将来的にというのは、どこを指して将来的なのかということには気になる部分があるのですが、将来というのを広い意味で捉えると、私は、一定規模というのは、極めて重要なと思います。これは聞いた話で、信憑性はどうかかわからないのですが、あるところで、この統合の問題が出たときに、そこも非常に地域の問題があつて難しかった、けれど、直接的に次世代の保護者の方、自分のこどもがこれから小学校に通っていくという保護者の方が、最終的に我が子があまりにも小規模校のところで教育活動するのは心配だ、と。次世代の保護者の声が、我々ではなくて、そういう声が、かなり後押しをしたのだ、というのは聞いております。あくまで、信憑性はないですが。

(会長)

今、委員さんがおっしゃったような状況ですよ。社会に出た子たちが、なかなかなじめない子が出てきている。実は、教育現場の一番上の大学という場で、今、30年教えているのですけれど、だんだん学生の質が変わってきたというのでしょうか、確かに、大きな中に入れられない子が増えています。小さい中で、そこで満足する。そういう学生が、本当に増えてきて、それで社会になかなか対応できないということが、もちろん、さまざまな学生がいますが、比率的には増えてきたなと思います。それから、卒業生で人事関係をしているものが、私の持っていた学生の中でもいまして、そこで聞くのは、今、非常に、入社した後の教育が難しいのだ、という段階になってきていると。もとを辿っていくと、やはり、少人数の中で、仲良しで育ててきた、それがそのまま社会で出てしまったということが、大きいと、そういう子たちが増えてきてしまったということは感じるのですよね。すみません、私の感想も出してしまいましたが、いかがでしょうか。

この2つ方向性で、今日、どちらを考るかということまでは、行きたいと思います。今、ご意見を伺うと、小規模のままでという意見も、もちろん出ておりますけれども、概ねの意見としては、一定規模で、というご意見が多いのではないかなと思いますけれども、ただ、どうでしょうか、私、ちょっと先走って申しあげましたけれども、小規模の良さというのも当然あるわけですし、メリットとデメリットというのも出していただけましたけど、一定規模にするということのデメリットをメリットに変える配慮、ということを中心に、委員会でも議論をすることで、一定規模にしていこうということではいかがでしょうか。

はい、では、その方向性で進めさせていただきたいと思います。

(委員)

ちょっといいですか。これまでの議論、大きな方向性について検討していただくという、方向性だったのですけれど、ある程度、ここまでの議論を体系的に事務局の方でまとめていただいて、次回以降、議論してきたことをある程度まとめて、確認をしていくということも必要かなあ、と。

(会長)

そうですね。今、ご意見いただきましたが、教育長よろしいですか。

(教育長)

はい。わかりました。

(会長)

それでは、今後の参考になるかと思いますが、幼稚園の組み合わせ方というのを事務局の方でまとめていただいていますので、あくまで今後の参考ということで。今日は、これについては、決定はいたしませんので。では、お願いします。

【事務局より説明】

(会長)

はい。では、何かご質問はありますでしょうか。まあ、1と3の組み合わせというのも、無くはないのかなと思ったりもしましたが。皆さまは、よろしいでしょうか。

(委員)

例えば、この案で言うと、幼稚園を2園にするのか、全町で1園にするのかということでしょうか。

(会長)

まあ、そのほかにも選択肢ありますよね。

(委員)

今は案ということではなくて、こういうパターンがあるということで、それぞれパターンごとに実現可能性というか、そういうものを次回以降、議論していくので、まだ案のレベルまで行ってない。

(委員)

これは、3年先の話ということですよ。それから先は、まだまだ子どもがどん

どん減ってくるよというところで。そういう数字が出てくるということですよ。

(会長)

1園の数字で言うと。郡家と竜川が多いというのが、ちょっと驚きでしたけど。竜川も多い。

(委員)

新しく住宅が建っている郡家もかなり多い。

(会長)

郡家は確かに、かなり広いですね。

(主任主事)

今年度の在園生で、郡家幼稚園が173名、竜川幼稚園が195名という数字になっています。

(委員)

人気でいうとね。多度津なら豊原、善通寺では竜川。そういうところは、人気があるのですよね。

(委員)

丸亀に近いということかな。

(会長)

はい。ありがとうございます。それでは、小学校のほうをお願いいたします。

【事務局より説明】

(会長)

小学校の組み合わせについては、何かご質問はありますでしょうか。

(委員)

小学校の場合だったら、通学距離が伸びてくるということになると、通学の手段つていうのを考えていけないのではないかと思いますね。幼稚園の場合だったら、保護者の方が送迎をしまするので、そのあたりは考えなくていいと思いますが。

(会長)

統合の場合であれば、あわせて検討すべきであるというご意見ですね。その他、よろしいでしょうか。

(会長)

幼稚園ですけど、今現在ある4園の組み合わせを考えられて、園区というか、今のエリアを守られている訳ですけど、小学校にあがった場合には、子ども会とかコミュニティとか色々入っていくのですが、幼稚園の場合は今の園区抜きで、1園の場合は問題ないのですが、2園にする場合も、どこで線引きするかを今は言えませんが、そういう分け方もあるのではないかなと思います。

(会長)

私も、これは見直す必要があると思いますね。

(委員)

そして、この1園になった場合の人数なのですけど、170名になるということで、この数字は多度津町内でも昔、多度津幼稚園とかでは170名を超えてた時代も1園にしても、十分いける数だと私は思います。

(会長)

あと、よろしいでしょうか。よろしければ、財政面での比較についても、資料を出しいただいているので、お願いしたいと思います。

【事務局より説明】

(会長)

ありがとうございます。財政面からの比較をいただきましたが、お聞きしてよいでしょうか。多度津小学校と多度津幼稚園の管理運営費がはずされているということで、園児児童1人あたりにかかる金額はいくらくらいだったのでしょうか。

(主任主事)

同じ値で、比較した場合、多度津幼稚園が27年度の実績で1人当たり101,990円、多度津小学校が42,213円。

(教育長)

今の財政のことは、前回のときに、こういう財政の資料もあつたら良いということで、ちょっと無理に数字を合わせたようなところもあるので、複雑な要素もあると思いますので、おおまかなものということで、構わないのですか。

(会長)

はい。わかりました。

(委員)

今後、具体的に絞り込む中で、より財政的な部分も絞り込んでいくことも必要だと思いますね。

(委員)

住民の立場からして、という声で聞いたのですが、やはり、こどもにかけるお金というのは、どこに住んでいても同じようにお金をかけてほしいなという声を、ちょっと聞いたことがあります。こっちに住んでいたらこうだけど、こっちだったら、というのは税金を納めよる立場としては、って言う声も聞こえましたので。

(会長)

確かに、そういった問題が出てきますよね。規模大きくできれば、それだけコストは抑えることができる、と。当然、公平になるようにするべきですよ。

それでは、よろしいでしょうか。では、この方向性で進めることで、今後の検討に移るといふことにしたいと思います。事務局のほうからは、何かございますか。

(教育長)

今、委員さんのほうからありましたが、今までのまとめていくというか、そういう作業をしながら次のステップに移らないといかんということが、今までちょっと弱かったのではないかな、と。情報交換中心だから、共通理解するというところで、そうしたのですけども、これからは3回目だったら3回目の、2回目だったら2回目のきちんとしたまとめをして、さらには、最終的には8月にまとめていくと思うのですが、そういうまとめにかけての、どういうまとめ方をしていったらいいかという事を含めて、今から検討していく必要があるのかと思います。今日言ったように、一定の人数で行くというのは、それを画一的に考えるのではなくて、それを深めることをしながらも、もう一方の要素なんかも並行して検討していかなければと思いました。どうぞ、またよろしくお願ひしたいとお思います。

(会長)

では、今後の予定についてですが。

(課長補佐)

次回の日程について、調整できればと思います。2ヶ月に1度ということで、2

月の後半になってくるかなと思うのですが

(委員)

周りの意見を聞くために、PTA連絡協議会の際にアンケートを作って、小学校と幼稚園に回して、集められるだけ集めようと思って、まだちょっと集計が必要なのですけど。

(会長)

ああ。もう出されたものですね。

(教育長)

報告してもらったほうがいいのではないかな。

一応、PTAの代表のほうでしていただいたもので、実際、PTAの方々がどんな意見をもたれておるかを知らなかったという立場で、委員のほうでまとめて、集計していただいて、こういう状況だったということ報告したいということで、また次の時に。

(会長)

次の時で大丈夫ですか。中間報告というのもあるかと思いますが。では、次回ぜひ。次の検討委員会の中で、議題として上げさせていただきます。

(課長補佐)

そしたら、2月20日でご案内させていただこうと思います。

(会長)

はい。ありがとうございました。特に今日は、アドバイザーの先生方におかれましては、本当にありがとうございました。委員の皆さまも、ご苦勞様でございました。

(課長補佐)

これで、本日の検討委員会を終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

以上、散会